

# 3月例会は「パッチギ! LOVE&PEACE」

## 2008年度総会は5月9日

### 例会のお知らせ

名称 / 第35回例会「パッチギ! LOVE&PEACE」

日時 / 3月27日(木) PM2:00 ~、PM4:20 ~、  
PM6:40 ~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。



### 【例会作品データ】

タイトル / パッチギ! LOVE&PEACE

監督 / 井筒和幸

出演 / 井坂俊哉、中村ゆり、西島秀俊、藤井隆、風間杜夫、キムラ緑子、手塚理美、キム・ウンス、今井悠貴、米倉斉加年、馬淵晴子、村田雄浩、ラサール石井、杉本哲太、磨赤兒、でんでん、寺島進、国生さゆり

データ / 2007年、日本、カラー、2時間6分、16mm、ドラマ / 青春 / ヒューマン / ラブストーリー

解説 / ご存知の通り、2005年9月例会で鑑賞した日本人と在日朝鮮人の青春群像ドラマ「パッチギ!」の続編。スタッフも、監督の井筒和幸、プロデューサーの李鳳宇をはじめ、1作目とほぼ同じ顔ぶれです。前作と比べ、時代が新しくなり、主人公たちが

年を重ね新しい家族を持っていく。また、舞台は、京都から東京へと移った。前作が、差別が顕在化した社会の若者の荒々しさが目だったが、本作では、現代の在日朝鮮の問題を背景としながらも、涙と笑いの感動作に仕上がっている。観た者の意見は、これを好むと好まざるに分かれているようだが、作品としてはまとまっている。

ストーリー / 74年。京都で大暴れしていたアンソン(井坂俊哉)は、病にかかった息子チャンス(今井悠貴)の治療のために、一家を引き連れ東京に引っ越してきた。アンソンはある日、駅のホームで宿敵近藤(桐谷健太)と遭遇し、彼が率いる大学応援団と朝鮮高校生との大乱闘に巻き込まれるが、気のいい国鉄職員の佐藤(藤井隆)に助けられる。佐藤はその争いが原因で国鉄をクビになってしまうが、アンソンの家族とも親しくなり妹キョンジャ(中村ゆり)にはほのかな思いを抱く。キョンジャはふとしたきっかけで芸能プロダクションからスカウトを受け、狭い世界を飛び出したいという思いとチャンスの治療費を稼ぐためにも、芸能界で頑張ろうと決意する。タレントとしての一步を踏み出すものの、なかなか芸能界のしがらみに馴染めないキョンジャに声を掛けてくれたのは、自然体で業界に染まらずにいる先輩俳優の野村(西島秀俊)だった。やがてキョンジャは迷いながらも野村に惹かれ始めていく。一方チャンスは病状は次第に悪化し、日本では助かる術がないと宣告されてしまう。アンソンはアメリカでの治療にかかる莫大な費用のために無謀な計画を立て、佐藤を巻き込みたった2人で危険な仕事へと突っ走っていくが…。愛する者の命を救うために、全てを投げ出し全力疾走するアンソンたち。果たしてキョンジャと野村の恋の行方は? アンソンと佐藤のとんでもない作戦とは? そして彼らはその手に LOVE & PEACE をつかむ事ができるのか!?(オフィシャルサイトから抜粋)

### 例会選定会議の報告

2月14日に例会選定会議を行ったので、その要点を報告します。

まず、参加者が5人と少なく、それぞれ重い責任

を感じながら選考を進めた。出席者やアンケートなどからの約 20 タイトルの候補作品を出し、9 タイトル(「歓喜の歌(2007 年、日本)」、「チベットの女ノイシの生涯(2000 年、中国)」、「胡同の理髪師(2006 年、中国)」、「長江哀歌(2006 年、中国)」、「サラエボの花(2006 年、ボスニア・ヘルツェゴヴィナほか)」、「4 分間のピアニスト(2006 年、ドイツ)」、「善き人のためのソナタ(2006 年、ドイツ)」、「麦の穂をゆらす風(2006 年、イギリスほか)」、「アズールとアスマール(アニメ、2006 年、フランス)」)に絞り、さらに選考を進めていった。

大接戦の結果、7 月例会を「アズールとアスマール(アニメ)」、9 月例会を「胡同の理髪師」に決め、11 月例会は保留とし、「歓喜の歌」を含めて今後 6 月までに日本映画の中から選考するという事になった。

「アズールとアスマール」は、奇才ミッシェル・オスロ監督・原作、高畑勲日本語監修のアニメ作品。スタジオジブリの高畑勲はフランス文学者でもある。シネマクラブの例会としては、アニメ映画には抵抗感があるという意見が強かったが、「このような機会が無いと観ない名作」という言葉が、妙な説得力があって選ばれた。ミッシェル・オスロの作品を高畑勲が日本語監修したものとして、「キリクと魔女(アニメ、1998 年、フランス)」があるが、世界に誇る日本のアニメが、置き忘れてきたものを、しっかり表現された作品であった。「胡同の理髪師」は、そのタイトルから、いずれも例会で鑑賞した「胡同のひまわり」と「大統領の理髪師」のようだという声もあがった。確かに作品の大きなテーマも、少し近い印象を受けるが、良い作品である。

## 定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2008 年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1 年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、ご出席いただきますようお願いいたします。

- 1 名称 2008 年度加古川シネマクラブ定例総会
- 2 日時 5 月 9 日(金)午後 7 時から 約 30 分間
- 3 場所 加古川総合文化センター 会議室 2
- 4 内容 2007 年度事業報告に関する事  
2007 年度決算に関する事  
2008 年度役員の選任に関する事  
2008 年度事業計画に関する事  
2008 年度予算に関する事

5 参加方法 直接会場にお集まりください。

6 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。

## 前回例会の報告

1 月 24 日の例会では、「明日へのチケット」を鑑賞しました。参加会員 157 人。

エルマンノ・オルミ、アッバス・キアロスタミ、ケン・ローチという巨匠監督 3 人による夢のコーポレーション作品であったが、淡々とした展開であり、肩透かしのように感じた人もいたでしょう。

強烈な個性のある主人公、美しいヒロイン、大どんでん返しの顛末、戦争など特別な出来事、流行の SF X など、おもしろい要素を、一切、盛り込まず、人間の心の機微だけで見せつけた、ある意味では挑戦的な作品だった。

終わった後、話し合ってみると、あの場面はその場面と、その場面はこの場面と関わりがあったという。じゃあ、この場面は何の場面に繋がっているの? と、いろいろ細かい描写を見れば、もっと楽しいようだ。

## 7 月の姫路での映画大学を成功させよう

映画鑑賞団体全国連絡会議(全国映連)の第 37 回映画大学が 7 月 19 日から 21 日までの 3 日間、姫路市で開催されます。姫路シネマクラブ等現地実行委員会の要請を受けて加古川シネマクラブも協力することになりました。

監督、プロデューサー、俳優、映画評論家らをお招きし、映画に関するさまざまなお話を伺う会となります。

詳しくは、後日、お知らせします。

## ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

**加古川シネマクラブ** ☎675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 204 人(1 月 24 日現在)